I. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した．

1. [R05-001: 採決] 2022年度収支決算および2023年度収支予算について審議し，承認された．（審議期間2023年9月8日から17日）．
2. [R05-002: 採決] 2023年度植生学会各賞受賞者の決定について審議し，承認された（審議期間2023年9月14日から23日）．

II. 学会事務局報告

1. JST によるジャーナルコンサルティングをオンライン会議で実施し，植生学会誌が DOAJ 収載要件を満たすための助言を受けた（実施日2023年6月27日）．
2. JST によるジャーナルコンサルティングをオンライン会議で実施し，ライセンスとオープンアクセスに関するレクチャーが開催され，植生学会誌の投稿規定の改善案などを相談した（実施日2023年8月31日）．

III. 編集委員会報告

2023 年 6 月 12 日から 29 日にメール会議により開催した．審議事項は以下の通り．

1. 編集委員会の2023年度予算案について審議した．
2. 植生学会誌の特集号の企画について審議し，41巻2号（2024年12月発行予定）と42巻2号（2025年12月発行予定）を特集号として刊行することとした．特集テーマとして，企画委員会が中心となって取り組んだ全国シカ影響調査と，東日本大地震大津波による植生影響と回復を取り上げることとした．
3. 学会誌の掲載論文に付随するデータの公開方法について審議し，これまでは電子付録として PDF 形式のファイルのみを認めていたが, 利用者の利便性に配慮して PDF 以外の形式も認めることとした．
4. 2023年度植生学会論文賞の受賞候補論文について，委員による投票結果に基づいて選定し，表彰委員会に推薦した．

2023 年 9 月 13 日から 23 日にメール会議により開催した．審議事項は以下の通り．

1. 植生学会誌の編集方針と掲載基準の明確化のため，査読要領の策定と公開の準備を進めることとした．
2. 投稿原稿の審査途中での種別変更を原著から短報だけでなく，短報から原著も可能とすることとした．これにともない，編集委員会内規の一部改定をおこなった．

IV. 企画委員会報告

2023 年 9 月 26 日に企画委員会（オンライン会議）を開催した．報告事項と審議事項は以下の通り．

1. 2023年8月27日に島野先生を講師に，釧路市にてトレーニングスクール（野外調査編）を開催した. 参加者は7名（うち現地スタッフ2名）であった．
2. 若手研究者研究助成制度がうまく機能していないことからこれを廃止し，別に支援制度を検討することとなった．
3. 2024年3月の第71回日本生態学会大会企画集会にて瀬戸会員が提案するシンポジウムを植生学会が後援して群落談話会企画を兼ねることが提案され，承認された．
4. 2023年3月に出版された「愛しの生態系」に関連した一般向けシンポジウムを企画することが提案され，承認された．

V. 表彰委員会報告

2023 年 5 月 31 日のメール審議で以下の事項を審議した．

1. 学会各賞（学会賞，奨励賞，功労賞，特別賞）および研究発表賞の公募・選考・表彰状授与にかかわる進め方を検討し，2022年度に準じることとした．

2. 表彰委員会の 2022年度決算と 2023年度予算案を承認した.

2023 年 8 月 23 日に第 1 回表彰委員会（オンライン会議）を開催した. 報告事項および審議事項は以下の通り.

1. 学会各賞の受賞候補者の推薦状況を確認した.
2. 第28回大会での研究発表賞の審査, 表彰状授与式のための役割分担を確認した.

2023 年 9 月 17 日に第 2 回表彰委員会（オンライン会議）を開催した. 報告事項および審議事項は以下の通り.

1. 2023年度功労賞1名の受賞候補者と論文賞1編の受賞候補論文について審議し, 承認された.
2. 第28回大会における各賞受賞者の表彰, および研究発表プログラムの作成について確認し, 大会支援委員会の下で実務を進めることとした.

2023 年 10 月 14 日に甲南女子大学で開催された第 28 回大会において, 研究発表プログラムの作成, 研究発表賞の選考, 受賞式の運営を大会支援委員会の下で実施した.

VI. 群集属性検討委員会報告

1. 委員会の構成メンバーを決定した.
2. 中村前委員長から検討課題の引き継ぎを行った.

VII. 大会支援委員会報告

2023 年 5 月 16 日に大会支援委員会（オンライン会議）を開催した. 報告事項および審議事項は以下の通り.

1. 一般講演・総会・表彰式は2023年10月14日に甲南女子大学が中心となって対面で実施することを確認した.
2. フィールド研修は, 2023年8月26日に釧路市立博物館の加藤ゆき恵氏が中心となって開催することを確認した.
3. フィールド研修は北海道道東地域で実施する計画が報告された.
4. 大会, 総会, 懇親会は甲南女子大学で実施することを確認した.
5. 大会参加費およびフィールド研修参加費について検討した.
6. 開催経費の納入方法と期限について検討した.
7. 大会実行委員会および大会支援委員会の体制および業務分担について確認した.
8. 植生情報への掲載記事について検討した.

2023 年 7 月 1 日に第 28 回大会参加申し込みおよび一般講演, フィールド研修, トレーニングスクールの受付を開始した.

2023 年 8 月 26 日に北海道厚岸町および浜中町においてフィールド研修を開催した. 参加者は 16 名（うち現地スタッフ 2 名）であった.

VIII. 2023 年度総会報告

2023年10月14日に2023年度総会が開催され, 以下の事項が報告された.

1. 学会事務局報告

   2023 年 9 月 28 日現在の会員数（正会員 455 名, 団体会員 11 団体, 賛助会員 1 団体）が報告された.

   2022 年度収支決算および 2023 年度収支予算が審議され, 承認された.

2. 各種委員会報告

   上記 I〜IV の各種委員会における報告事項と審議事項が報告された.

3. その他

   第 29 回大会の運営代表者として筑波大学の川田清和氏より大会を開催する準備を進めることが報告された. またフィールド研修についてつくば市周辺で開催する準備を進めることが報告された.

IX. 学会賞

2023 年度の学会各賞の受賞者は以下の通り. 授

与式は 2023 年 10 月 14 日に甲南女子大学で行われ，上條会長より各受賞者に表彰状と記念品が贈呈された．

学会賞　受賞者なし

奨励賞　受賞者なし

功労賞　原　慶太郎氏

特別賞　受賞者なし

論文賞　石田祐子氏・松江大輔氏・井上亮平氏・小松（谷津倉）勇太氏・武生雅明氏・中村幸人氏．北アルプス後立山連峰北部における広葉草原の種組成と成立要因（植生学会誌第 39 巻　1 号 15-29 頁掲載，2022 年 6 月発行）

研究発表賞

口頭発表賞　石井直浩（鳥取大）・西村一晟（横浜国立大）・Yulan Qi（横浜国立大）・Gantsetseg Batdelger（モンゴル気象水文局）・鏡味麻衣子（横浜国立大）・瀧本　岳（東京大）・佐々木雄大（横浜国立大）　モンゴル草原における群集組成の変化パターン比較～気候帯と放牧の有無による影響～

ポスター発表賞　吉田光翔（都立大・院）・吉田圭一郎（都立大）・武生雅明（東京農大）・磯谷達宏（国士舘大）　植生帯境界域における 17 年間の森林動態と種間競争

X. 植生学会第 28 回大会報告

植生学会第 28 回大会（実行委員長：松村 俊和）が，2023 年 10 月 14 日に甲南女子大学で開催された．一般講演では口頭 27 題ポスター20 題の発表申し込みがあった．大会参加申し込み数は 135 名であった．

10 月 13 日　植生標本庫見学ツアー（大阪市立自然史博物館）

10 月 14 日　一般講演，総会，学会賞各賞授与式，懇親会（甲南女子大学）

10 月 15 日　植生創出事例研修会（兵庫県立尼崎の森中央緑地）

一般講演の申し込みは以下のとおりであった．

<口頭発表>

A01　青梅の森特別緑地保全地区のコナラ二次林と針葉樹人工林における地形・地質と種組成の関係　加瀬裕亮・吉川正人（東京農工大・院・農）

A02　八丈島のスギ人工林における維管束着生植物，特にセッコクの分布特性　北口雄悟（筑波大・山岳科学）・上條隆志（筑波大・生命環境）・鈴木康平（東京農大・地球環境）

A03　発表キャンセル

A04　九州のシカ食害による下層植生の消失が動物群集に与える影響　上森教慈・小山田美森・片山歩美・菱　拓雄（九州大）

A05　湿原植物の季節成長と防鹿柵内外における成長の比較　久保田　憲・永松　大（鳥取大・院・農）

A06　三宅島 2000 年噴火火山灰上に成立した先駆植物群落における中大型土壌動物群集　本間伸太朗（筑波大・生物資源科学）・上條隆志（筑波大・生命環境）・吉田智弘（東京農工大・農）・青山友輝（筑波大・生物資源科学）

A07　モンゴル草原における群集組成の変化パターン比較～気候帯と放牧の有無による影響～　石井直浩（鳥取大）・西村一晟（横浜国立大）・Yulan Qi（横浜国立大）・Gantsetseg Batdelger（モンゴル気象水文局）・鏡味麻衣子（横浜国立大）・瀧本　岳（東京大）・佐々木雄大（横浜国立大）

A08　北海道浮島湿原における現在の植生と過去からの変化　佐久間春子（北大・院・農）・冨士田裕子（北大・農）　・首藤光太郎（北大・総博）・三木　昇（北ノ森自然伝習所）・内田暁友（北見市在住）　・井上　京（北大・農）

A09　鳥取市 3 地点における植栽ヤマザクラの着花量と各影響要因　馬　思亮（鳥取大・連合

農学)・永松　大（鳥取大）

A10　植生調査を支援するアプリの開発（改訂版）松村俊和（甲南女子大・人間科学部・生活環境学科）

A11　全国規模の衛星植生図化手法開発の現況　原　慶太郎（東京情報大・総合情報)・平山英毅（東京情報大・総合情報/千葉大 CEReS）

A12　北海道南西部・堀株川におけるハリエンジュ抑制試験　助野実樹郎・神保貴彦（株式会社北海道技術コンサルタント)・小樽建設管理部

A13　外来種メリケンムグラの分布に及ぼすダム湖の影響について　西脇亜也・濱口青空（宮崎大・農）

A14　尼崎の森中央緑地における植生創出の現状とその課題　田村和也・佐野香織（(株）里と水辺研究所)・石丸京子・斉藤義人（尼崎の森中央緑地パークセンター)・阪神南県民センター尼崎 21 世紀プロジェクト推進室

B01　信州安曇野郊外におけるチョウ類群集と植物群落の対応　木内顕成（信州大・理)，島野光司（大阪産業大・環境理工）

B02　箕面公園周辺におけるツブラジイとスダジイの分布要因の違い　小林悟志（環境省・九州地方事務所）

B03　青森県八甲田山における 90 年間の山岳森林植生の種組成変化　設樂拓人・黒川紘子・小黒芳生・大橋春香（森林総研)・佐々木雄大（横国大・院・環境情報)・石井直浩（鳥取大)・鈴木海帆（横国大・院・環境情報)・岩知道優樹（横国大・院・環境情報)・橘　太希（横国大・院・環境情報)・柴田銃江・松井哲哉（森林総研）

B04　利尻山の亜寒帯針葉樹林における大規模な風倒攪乱と樹木の更新　吉田圭一郎（都立大・地理)・比嘉基紀（高知大・理工)・石田祐子（神奈川県立生命の星・地球博物館)・若松伸彦（日本自然保護協会)・瀬戸美文（高知大・院・黒潮)・吉田光翔（都立大・院・地理）

B05　利尻島大空沢扇状地の植生構造と立地環境　比嘉基紀（高知大・理工)・吉田圭一郎（都立大・地理）

B06　神津島と三宅島の道路沿いに生育する絶滅危惧種サクユリの生育状況と管理　藤田莉子（筑波大・生物資源)・鈴木康平（東京農大・地球環境)・上條隆志（筑波大・生命環境）

B07　イトイヌノヒゲなど湿地性植物保全の取り組みと自生地の環境の把握について　長千佳・鈴木奨士・富山陽子（㈱奥村組)・上條隆志（筑波大・生命環境系）

B08　モンゴルステップにおける施肥が群落構造に及ぼす影響　川田清和（筑波大・生命環境系)・石川尚人（福島大・食農学類)・Jamsran Undarmaa（モンゴル生命科学大)・田村憲司（筑波大・生命環境系）

B09　水田の再生と放棄に伴う植物群落の成立過程　武生雅明（東京農大・地域環境）

B10　日本分布最南限のリュウキンカ個体群および群落の現状　斎藤達也（熊本県大・環境共生)・一柳英隆（熊本県大・緑の流域治水）

B11　津波による水没地・非水没地が混在する海岸における海浜・塩生湿地植物群落の空間的分布　山ノ内崇志（福島大・共生システム理工学類)・佐々木晴大（福島大・院・共生システム理工学研究科)・黒沢高秀（福島大・共生システム理工学類）

B12　釧路湿原温根内の湿原植生にみられた 10 年間の変化　佐藤雅俊（帯畜大・環境農学)・野原精一（国環研・生物多様性領域）

B13　北海道根釧地域の湿地の植物多様性の解明と自然資源の評価に向けて　冨士田裕子（北大・農学研究院)・石川弘晃（北大・農)・加藤ゆき恵（釧路市立博物館)・首藤光太郎（北大・総合博物館）

B14　温暖な地域における湿原の成立環境と保全
波田善夫（岡山県赤磐市）

<ポスター発表>

P01　植生帯境界域における 17 年間の森林動態と種間競争　吉田光翔（都立大・院）・吉田圭一郎（都立大）・武生雅明（東京農大）・磯谷達宏（国士舘大）

P02　里山域における耕作放棄地の埋土種子集団と管理履歴の関係　西尾孝佳（宇都宮大・雑草管理教育研究センター）

P03　ササの消失が土壌の特性や微生物活性に与える影響―九州の山岳ブナ林における事例―　小山田美森・上森教慈・菱　拓雄・片山歩美（九州大・農）

P04　北海道東部，別海町兼金沼周辺湿原の維管束植物相と希少性評価　加藤ゆき恵（釧路市立博物館）・深津恵太（北方環境研究所）・高嶋八千代（道東野生植物調査会）・内田暁友（北海道北見市在住）・持田　誠（浦幌町立博物館）・松下〔宮野〕和江（標津町野の植物の会）

P05　茨城県南部の茅場における湿性希少植物の生育条件　大野翔平（筑波大・生物資源）・川田清和（筑波大・生命環境系）

P06　古いさく葉標本から見た開発以前の大阪湾岸の海浜植物の分布　横川昌史（大阪市立自然史博物館）

P07　瀬戸内海沿岸におけるナミキソウの分布と生育状況　谷口みなみ（兵庫県立大・院）・澤田佳宏（兵庫県立大・院）・横川昌史（大阪市立自然史博物館）・藤原道郎（兵庫県立大・院）

P08　六甲山系のクスノキ群落における林床植生の回復にイノシシが及ぼす影響　栃本大介・堀田佳那（ひょうご環境創造協会）・田村悠旭・竹中　淳（神戸市建設局）

P09　シカ生息地のスギ人工林における林冠木の部分伐採と低木層の刈払いが林床植生に与える影響　羽田珠里（宮崎大・農）・伊藤　哲（宮崎大・農）・平田令子（宮崎大・農）・小山弘幸（（同） MORISHO）・高木千尋（（同） MORISHO）

P10　Expert system を用いた群落分類に基づく植生図化の検討－ 東北地方におけるコナラ・ミズナラ林の事例 －　則行雅臣・倉本　蘭（中外テクノス（株））・近藤博史（横浜国立大）・吉川正人（東京農工大・院・農）・星野義延（星野ファーム＆フィールドリソーシーズ）

P11　伊豆大島における異なる年代の溶岩上に生育するオオシマザクラのサイズ構造　中橋（安冨）江梨（筑波大・生物資源科学）・上條隆志（筑波大・生命環境）

P12　伊豆諸島の植生・植物・生態系の保全　上條隆志（筑波大・生命環境）

P13　外来種キョンによる伊豆大島のアシタバ食害と胃内容物中のアシタバ　石井陽大・越智郁也（筑波大・生物資源科学）・上條隆志（筑波大・生命環境）・尾澤進二（東京都大島支庁）

P14　2000 年噴火後の三宅島における景観と国内外来種ニホンイタチの食性との関係　東谷一熙（筑波大・農学）・上條隆志（筑波大・生命環境）

P15　2000 年噴火後の三宅島における景観と国内外来種アズマヒキガエルとの関係　馬籠優輔（筑波大・生物資源科学）・澤田聖人（筑波大・農学）・鈴木康平（東京農大・地球環境）・上條隆志（筑波大・生命環境）

P16　ケニアにおける種組成から見た標高に対する植生配分とその特徴　目黒伸一（国際生態学センター）

P17　中国・黄土高原河北地方において食利用される耕地雑草と日本との比較，植物文化論および遺伝資源の生物多様性保全からの一考察　大窪久美子（信州大・農）・前中久行

（認定特定非営利活動法人　緑の地球ネットワーク）

P18　粘り強い防潮堤における覆砂土と植生のあり方に関する植生工学的考察　平吹喜彦（東北学院大・地域総合）・岡　浩平（広島工業大・環境）・松島　肇（北大・農学研究院）・黒沢高秀（福島大・共生システム理工学類）・富田瑞樹（東京情報大・総合情報）・長島康雄（東北学院大・文学）

P19　尼崎の森中央緑地に創出された多様な植物群落を活かした環境学習の事例　岡花泉見・大村貴美子・石丸京子（尼崎の森中央緑地パークセンター）

P20　尼崎の森中央緑地緑化若齢林におけるカシノナガキクイムシ発生状況の事例報告　石丸京子・斉藤義人・三橋奈央子・岡花いづみ（尼崎の森中央緑地パークセンター）・田村和也（(株) 里と水辺研究所）・阪神南県民局尼崎２１世紀プロジェクト推進室

XI. 会員移動 （2022 年 4 月 1 日から 2023 年 10 月 14 日まで）

1. 新入会員（*学生）

松尾壮浩　中外テクノス株式会社関西技術センター環境調査室

*松尾章史　東京農工大学農学部植生管理研究室 研究生

大嶋克海　株式会社 KANSO テクノス環境部自然環境グループ

*大山秀太　高知大学

佐野香織　株式会社　里と水辺研究所

岡花泉見　所属なし

*吉田光翔　東京都立大学院都市環境科学研究科地理環境学域

*佐久間春子　北海道大学大学院農学院

*大野翔平　筑波大学生命環境学群生物資源学類

*上森教慈　九州大学

*小山田美森　九州大学大学院生物資源環境科学府

*北口雄悟　筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究科山岳科学学位プログラム

*馬籠優輔　筑波大学

*羽田珠里　宮崎大学

*山下航平　信州大学大学院 総合理工学研究科

*中橋江梨 /筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物資源科学学位プログラム

*谷口みなみ　兵庫県立大学大学院 緑環境景観マネジメント研究科

*加瀬裕亮　東京農工大学院農学府農学専攻植生管理学研究室

*本間伸太朗　筑波大学理工情報生命学術院生命地球科学研究群生物資源科学学位プログラム

藤田莉子　筑波大学生命環境学群生物資源学類卒業

首藤光太郎　北海道大学総合博物館

*東谷一熙　筑波大学大学院理工情報生命学術院生命地球科学研究群農学学位プログラム

*久保田憲　鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究博士前期課程農学専攻里地里山環境管理学コース

*佐藤シェーン功大　東京都立大学都市環境科学研究科地理環境学域

2. 退会

赤松弘治，坂本圭児，藤彦祐貴，田中伸悟，大崎晴菜，安部順一朗，大野啓一（逝去），戎谷遵，中原美穂，伊東由緑子，大野美涼

3. 宛先不明

ヌルビヤ　マイマイティ，前田恵未，木村祐貴，王一丹，林　裕貴，菅井暁乃，椎名良祐，大庭崚輔，枝澤海里

別掲 1. 植生学会 2022 年度一般会計収支決算（単位:円）

収入の部	予　算	決　算	差　異	備　考
前期繰り越し	3,641,352	3,641,352	0	
会費	2,692,000	2,640,000	-52,000	一般 360，学生 27，団体 11，賛助 1
バックナンバー売り上げ	20,000	1,300	-18,700	
雑収入	500,000	619,587	119,587	
		(103,343)		著作権使用料分配金
		(237,600)		超過ページ等，著者負担分
		(278,644)		寄付金（退会者，大会参加者，第 27 回大会実行委員会）
利息	500	13	-487	
計	6,853,852	6,902,252	48,400	
支出の部	予　算	決　算	差　異	備　考
植生学会誌刊行費	2,100,000	1,317,723	782,277	第 39 巻 1・2 号（印刷代・発送手数料・発送用台紙・送料・振込手数料（別冊印刷費を除く））
植生情報刊行費	350,000	232,772	117,228	第 26 号（印刷代・発送手数料・振込手数料）
学会事務局経費	600,000	432,241	167,759	学会・会計事務委託料を含む
編集委員会経費	20,000	6,460	13,540	
企画委員会経費	400,000	77,550	322,450	トレーニングスクール費用
表彰委員会経費	71,000	31,054	39,946	筆耕代・記念品代等
大会補助費	300,000	300,000	0	第 27 回大会
予備費	3,012,852	78,430	2,934,422	第 39 巻 1 号別冊印刷費 61,600 円，第 39 巻 2 号別冊印刷費 16,500 円，振込手数料（165 円×2＝330 円）
計	6,853,852	2,476,230	4,377,622	
収支差額（繰り越し）	0	4,426,022		

別掲 2. 植生学会 2022 年度特別会計収支決算（単位:円）

収入の部	予　算	決　算	差　異	備　考
前期繰り越し	4,085,363	4,115,008	29,645	差異は前年度の精算漏れ分（SSD 代および振込手数料）
利子	0	34	34	
計	4,085,363	4,115,042	29,679	
支出の部	予　算	決　算	差　異	備　考
国際学術発表助成事業	150,000	0	150,000	
国際植生学会派遣事業	150,000	0	150,000	
研究助成	150,000	0	150,000	
植生情報データベース化	150,000	29,480	120,520	SSD 代
書籍刊行	1,000,000	1,000,000	0	
事務局経費	10,000	440	9,560	SSD 代・書籍刊行費振込手数料（一般会計へ）
その他（雑費）	30,000	0	30,000	
計	1,640,000	1,029,920	610,080	
収支差額（繰り越し）	2,445,363	3,085,122		

別掲 3. 植生学会 2023 年度一般会計収支予算（単位:円）

収入の部	2023 年度	2022 年度	差　異	備　考
前期繰り越し	4,426,022	3,641,352	784,670	
会費	2,598,000	2,640,000	-42,000	一般 393 名（うち功労者 8 名），学生 42，団体 11，賛助 1（5 月 31 日現在）
バックナンバー売り上げ	20,000	20,000	0	
雑収入	500,000	500,000	0	
利息	500	500	0	
計	7,544,522	6,801,852	742,670	

支出の部	2023 年度	2022 年度	差　異	備　考
植生学会誌刊行費	950,000	2,100,000	-1,150,000	第 40 巻 1 号・2 号
植生情報刊行費	350,000	350,000	0	第 27 号
学会事務局経費	600,000	600,000	0	
編集委員会経費	20,000	20,000	0	
企画委員会経費	400,000	400,000	0	
表彰委員会経費	71,000	71,000	0	
大会補助費	300,000	300,000	0	第 28 回大会
予備費	4,853,522	2,960,852	1,892,670	学会誌著者負担分立替（第 40 巻 1・2 号それぞれ 35,000 円）を含む
計	7,544,522	6,801,852	742,670	

別掲 4. 植生学会 2023 年度特別会計収支予算（単位:円）

収入の部	2023 年度	2022 年度	差　異	備　考
前期繰り越し	3,085,122	4,085,363	-1,000,241	
計	3,085,122	4,085,363	-1,000,241	
支出の部	2023 年度	2022 年度	差　異	備　考
国際学術発表助成事業	150,000	150,000	0	
国際植生学会派遣事業	150,000	150,000	0	
研究助成	150,000	150,000	0	
植生情報データベース化	150,000	150,000	0	
書籍刊行	0	1,000,000	-1,000,000	
事務局経費	10,000	10,000	0	振込手数料等
その他（雑費）	30,000	30,000	0	
計	640,000	1,640,000	-1,000,000	
収支差額（繰り越し）	2,445,122	2,445,363	-241	